



プレスリリース

令和7年8月6日 山武市秘書広報課

送付文書 計4枚

報道機関 各位

太平洋戦争終結から80年 青い目の人形を通して親子4代でつなぐ平和への願い

昭和2年の春、アメリカ人牧師（宣教師）のシドニー・ルイス・ギューリック氏たちが組織する「世界児童親善会」から渋沢栄一氏が会長を勤める「日本国際児童親善会」に12,739体の人形が託され、国内の小学校等に配布されました。太平洋戦争中、この「友情の人形」は「敵国の人形」として多くが処分、県内では、214体中10体が現存しそのうちの1体が成東小学校所蔵の「アリス・ブレーブル」です。

この「アリス・ブレーブル」に関する秘話（詳細は別添資料参照）を基に紙芝居を制作し、市内小学校等で平和の尊さを伝える元山武市立小学校校長の並木久栄さん。

戦後80年を迎える節目の本年、並木さんのお孫さんが本紙芝居を英語に翻訳しました。

祖母と孫が英語で伝える紙芝居を録音および録画し、米国に居るギューリック博士のお孫さん（ギューリック三世）へ送るため次の日程で録画（録音）を行います。

なお、録画（録音）当日は、その様子（一部）と並木さんとお孫さんへインタビューも可能です。取材可能な日時は下記のとおりですので、御社の記事掲載等、ご検討いただけますと幸いです。よろしくお願いします。

記

1. 日時 令和7年8月13日（水）15時～16時

2. 場所 山武市役所第5会議室

【送信元・問合せ先】

山武市総合政策部秘書広報課 担当：五木田

TEL：0475-80-0152

FAX：0475-80-2107

Email：hishokoho@city.sammu.lg.jp



【ご参考】

～並木久栄さんの平和へ寄せるメッセージ～

青い目の人形アリス・ブレーブルの朗読紙芝居を地元小学校や地域で平和活動の目的で仲間たちと続けています。

2025年は太平洋戦争終戦から80年、2025年は親善人形交流100周年を迎えますが、語り部は年々高齢化し、戦時中の出来事の風化を懸念しています。

戦時中の出来事を振り返り、若い世代や世界に平和への願いを伝える活動の域を拓け、未来へ繋ぐため、私の母から引き継いだ「アリス・ブレーブル」の出来事を孫たちが翻訳してくれました。

孫の優衣と芽維が翻訳した英語版の紙芝居を通じて、広く平和へのメッセージになればと思います。

太平洋戦争 終戦から80年——

母から娘 子どもたちへ引き継ぐ平和への祈り

Who are you? I am アリス・ブレーブル——

～友情は国境を越えて「青い目の人形」の物語～



昭和2年、アメリカ合衆国から国際親善の証として日本各地に贈られた「青い目の人形」。千葉県に現存する1体のうち「アリス・ブレーブル」と名づけられた1体が成東小学校で大切に保管されています。

成東小学校では、児童たちが戦争や平和について学ぶ一環としてこの人形にまつわる秘話を伝えている「房の会（山武支部退職女性教職員の会）」から紙芝居でお話を聞きました。

紙芝居は「青い目の人形秘話」と題され、日米の親善大使として贈られた人形が戦時中に「敵国人形」と処分命令が出る中、「人形に罪はない」と非国民と呼ばれる覚悟で守り抜いた並木栄さんの母、久子さんの思いを描いています。

決して他人事ではないこの実話に、児童たちは「もし自分なら、アリスをどうしただろう」と真剣に耳を傾けていました。



▲戦時中に学校で起こった出来事を鮮明に語る竹内さん（右）

※国民学校とは、昭和16年から22年までの日本の小学校の名称のこと

「当時、大人は戦争に駆り出されていたため、子どもは重要な働き手でした。田植え、麦踏み、草刈り、軍馬の食料である干草作りなどしていました。あと女の子は弾薬庫に保管された弾薬を油雑巾で拭く『球磨き』をしたことが強烈な思い出です」。

紙芝居の後、戦時中の国民学校（小学校）で銃を持った訓練の様子を竹内規久枝さん（90歳）が語ります。

●市民記者が行く

平成28年
広報さんむ5月号P.24
成東小
「青い瞳の人形」秘話



↑詳しくは、二次元コードからご覧ください。

「青い目の人形」 アリスちゃんの歴史を紐解く



▲「アリス・ブレーブル」

1924年に「排日移民法」が成立したことで日米両国の対立を憂いたアメリカ人宣教師シドニー・ルイス・ギューリックが組織する「世界児童親善会」から、昭和2年（1927年）春、「日本国際児童親善会」（会長：渋沢栄一）に12,739体の人形が託され、日本の小学校・幼稚園・図書館に配布された。日本では「親善の人形」と称し、通称「青い目の人形」と呼んで歓迎し、その答礼に、58体の高級人形がアメリカに贈られた。しかし、多くは太平洋戦争中に「敵国人形」として廃棄処分され、現存するのは全国で300あまりにすぎない。山武市では成東、鳴浜、緑海、日向、睦岡、松尾、蓮沼の各小学校に贈られたが、現存するのは成東小学校所蔵の「アリス・ブレーブル」と名付けられた人形だけである。（市指定文化財）



▲山武市内の山林に落ちていた戦時中に使われていた銃の弾薬



▲「青い目の人形」の歴史から平和の大切さを語る並木さん

房の会の並木さんは、「アリス・ブレーブルは、日米の友情の証として贈られました。時代を超えてこの人形が存在していることが、平和の大切さを語りかけています。子どもたちが自ら考えるきっかけになれば」と語りました。

最後に、並木さんが「平和な世の中を作るのはみんな次第。気持ちをおおらかに」と呼びかけると、竹内さんも「これから楽しい思い出をたくさん作ってほしい」と児童たちに語りかけ、授業を締めくくりました。

若い世代へつなぐ平和への願い

並木優衣さん・久栄さん
(成東・22歳 78歳)

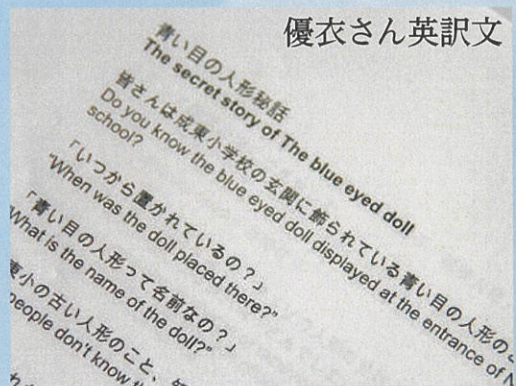


青い目の人形を通して親子4代でつなぐ100年の平和への願い。「私は会ったことのないひいおばあちゃんのことを、成東小学校の『青い目の人形アリス』で知りました」と語る並木優衣さん(22歳)。(青い目の人形の詳細は広報さんむ4月号P.3を参照)

アリスの紙芝居を通して、平和の大切さを若い世代に伝えたいと願う祖母の久栄さんの草の根活動を手伝い、英語に翻訳しました。

英語が好きで国際親善に興味があるという優衣さんは「ひいおばあちゃんとおばあちゃんの思いを私の英訳で世界中にアリスの話を広め、言葉の壁を越え、異なる文化を持つ人々にも平和へのメッセージを語り継いでいきたいです」と話していました。

優衣さん英訳文



【紙芝居の英訳文より抜粋】

私は今、アリスちゃんの秘話を終えて、どんな時代の流れの中でも自分で考え、判断し行動すること、世の中が大変な時こそ、人としての心を大切にしていきたいと願っています。

Now that I have finished Alice-chan's secret story, I hope to think, judge, and act on my own, no matter what the times are like, and to cherish the human spirit even when the world is going through difficult times.

蓮沼国民学校に入学した年に戦争が始まりました。夏休みには軍馬のエサになる乾燥した草をどれだけたくさん集められたかで優良可の評価がつけられました。自宅のある殿下には兵隊さんが駐在し、艦載機が毎日飛び、真っ黒なグラマン(米海軍が使用した艦上戦闘機)3機がすぐ近くを飛んでいったこともあり、落ちたところも何度も目撃しました。学校から集団で五所神社の裏でドングリ拾いをしていた時、空襲警報が鳴り栗山飛行場が襲われました。私は大きな木に登り、その様子をまるで映画を見ているかのように眺めていました。父は葺き屋根の職人で、1日の手間賃が200円ほど。その当時、米1升も同じく200円ほどでした。兄は、2斗の米を自転車に積んで横芝駅まで運び、そこから錦糸町まで「やみや(闇市)」に売りに行っていました。父が兵隊に取られてからは、母が海で採れたアジを干物にし、仲買人に売って生計を立てていました。この地域にも旦那さんが戦死し、幼子2人を抱えた20代の未亡人も。本当に大変な時代でした。



母の故郷が蓮沼であり小さな持ち家もあったので、小学4年生の時に縁故疎開で蓮沼国民学校に転校してきました。当時は戦況が悪化する中で、軍国主義教育が強化され、特に上学年男子は「将来立派な軍人となる小国民を育てる事」を目標として体罰的訓練が進められていました。食料事情も厳しくなり、主食は米に代わり、すいとん等小麦粉を原料としたもの・サツマイモ等の芋類・とうもろこし・南瓜等を「代用食」として空腹を満たしていました。またタンパク源を補うものとして、赤蛙やシマ蛇等を捕まえて食用とすることもありました。この食料事情の悪化は終戦後も続き、栄養失調で倒れ死亡する人もいました。戦争末期、米軍の本州の上陸地点として、九十九里海岸が予想されるようになると、大きな軍団が集結・駐屯し、防御体制が整えられていきました。



学校でも、上学年の「わら人形」を立てて突き抜く竹槍訓練に真剣味が求められ、新しく「たこつぼ堀り」(一人用の塹壕づくり)が付け加えられました。言うまでもなく、これらの学習・作業は、幸せな事に使用せずに済んだのですが、我が家の疎開とは、国の方針・指示とはいえ、いったい何だったのかと考えさせられます。戦争はもう懲り懲りです。



▲現在の南浜地区の様子



▲軍用車両用の頑丈な橋を架けるため取り壊されてしまった赤羽橋(南浜地区：蓮沼海浜公園近く)

蓮沼国民学校の同窓生の加瀬さんと大池さんは「この辺りの海岸は遠浅で上陸しやすいからもう少し戦争が長引いていたら、危なかったね。もし上陸されていたら、女性や子どもは他の地域へ疎開させられたと思うので、各々の人生も今とは違っていたと思います」と振り返りました。